



設定

体育会水球部部員 × 痴漢

毎朝決まった時間、決まった車両で痴態が行われているとある電車。そこに乗り合わせてしまった大学生水球部の主人公が脅迫と快楽によりおとされていく展開です。

痴漢、開発、兜合わせ、アナニー、撮影、輪〇、貞操帯、公開オナニー等句点記号擬音等含み 16500 字程度の作品です。
画像のみAIで作成しています。

登場人物

長崎 優(ながさき すぐる) 22 歳 4 年生

水球部部員。穏やかで落ち着いている性格。

坂田 圭吾(さかた けいご) 21 歳 3 年生

水球部部員。ノリはいいが、先輩にも威圧的な一面がある。

杉山 将太(すぎやま しょうた) 22 歳 4 年生

水球部部長。曲がったことが大嫌いな古風な男。

電車

今日は公営プールでの練習。

後輩の坂田から「早めに入って練習に付き合ってほしい」と誘われた。先輩に対しても尊敬の姿勢が足りず、どこか威圧的なところがある坂田にしては珍しい頼み。それも、同学年でもない自分に……。

『7時39分発の電車に乗りましょう。遅れるといけないので、直接電車で落ち合いましょう。1号車の後ろあたりが空いているらしいので、そのあたりで』

いつになく丁寧なメッセージに、優は少し眉をひそめつつも了承した。

しかし、空いていると言われた場所も予想以上に混雑しており、人の波に押されるようにして優は端のほうへ追いやられた。周囲を見渡してみても、人の壁で坂田の姿は確認できない。

(まあ、目的地に着いてから合流すればいいか……)

そう思ってひと息ついたとき、車内アナウンスが流れ、電車はゆっくりと動き出した。揺れに身を任せながら、優はふと胸の中に小さな違和感が芽生えるのを感じた。坂田が自分を誘った理由……ただ練習に付き合っただけなのだろうか。

そんなことを考えていると誰かの手がふと尻に触れる。いくらこんでいるといっても位置的に故意でないと触れない……。

手で払いのけるが、その手は再び尻に触ってくる。その手をつかんでやろうと

思っていると、尻だけでなく、太もも、腹、背中などにも手が伸びてくる。

(一人じゃない……)

ゾワッと悪寒が走る……。何とかその位置から抜け出そうとするが、筋肉質な優でもびくともしない。よく見ると周りの男たちはニヤけながら優を見ている。

(なんだこいつら……)

「く……通してくださいっ」

男が男に体を触られているだけで騒ぎにはしたくない優は小声で言いながら必死に反抗するが、その両手をつかまれてしまう。一人二人どころではない。周りにいる男達が皆敵に見える。

(なんだよ……こいつら……何かの冗談か……)

サワサワサワ……もみもみもみ……スリスリスリ……♡

(おいおい冗談だろ……まじで痴漢かよ……俺男だぞ……しかもこんな大勢で……)

男の手はどんどん遠慮と礼儀を失っていき、欲望のままに優の体をもみはじめる。水球で鍛えられた臀部の筋肉、その厚い胸板、中には股間をもむものま

で……。

優の後ろに回り込んだ男は優に体を密着させて、その硬くなった陰茎を優の尻の谷間に擦り付け始める。

「や……やめてください……こんなの犯罪すよ……」

男たちはただ笑うだけで、優が必死に混乱する中で考えた、男たちを自制させるためのセリフも一切効果はなく、そのまま触り続けている。

男たちはまるで優の感じる部分を知り尽くしているような手つきで、優の体をまさぐっている。太もも、脇、首筋……男に触られているのにゾクゾクと体が反応していく。

(最近ぬいてなかったから……まずい……こんな状況で……たつな……たつな……)

優の願いもむなしく、集団による体への愛撫で優の一物はそのジャージの生地をもちあげ始めている。

「勃起してきたね……男に触られて気持ちいいんだ。〇〇大学水球部の長崎優君」

「な……なんで……名前を……」

ジャージにプリントされている大学名や部活名を把握されているだけでも気持ち悪いのに、名前まで知られていることに動揺する。その普段は落ち着いて

いて、動揺することもない優がゆらいだのを確認すると、男は更に強引に優の体を触り始める。男は優を後ろから強い力で抱きしめ、その陰茎を優の尻に押し当てながら、両乳首を責め始める。

「ぐう……やめろ……はなせ……」

優が抵抗すればするほど、男たちは興奮した笑いをうかべ、その手つきは激しくなる。そして、一人の男が優のジャージに手をかけると、一気にずり下してしまう。家から履いてきていた水球用の厚手の水着、通称ポロパンが露わになる。

「いいねえ、やっぱり水球部はたまらないねえ。このもっこりの中にどんなブツを隠しているのか、楽しみで仕様がなないねえ」

「こいつの尻も触ってみろよ。垂れてなくて、丸みを帯びたプリケツで最高だぞ」

「こいつの雄っぱいもなかなかだぜ。まだ乳首は小さいが、かなり立体的でもみごたえがある」

（何を言っているんだ……こいつらは……最悪だ……）

思い切り力を込め男たちを振り切ろうと再度トライするも、やはり押さえつけられてしまう。

「上も脱がしちまおうぜ。これ以上暴れられても面倒だ」